

県医師会の動き

副会長 吉本 正博

7月4日(火)に九州に上陸した台風3号が通過した後、西日本に停滞する梅雨前線の活動が活発化し、中国地方や九州北部地方では局地的に猛烈な雨に見舞われました。特に九州北部では記録的な豪雨となり大きな被害が発生しました。山口県では消防庁長官の要請を受け7月6日(木)、緊急消防援助隊山口県大隊(43隊170人)を福岡県に、山口県消防防災ヘリコプター「きらら」を大分県日田市に派遣しました。山口県医師会でも情報収集に努めていますが、7月11日の時点ではJMAT出動の要請は出されていません。亡くなられた方、被災された方々には心から哀悼、お見舞いを申し上げます。

6月18日(日)、西日本総合展示場で**臨床研修病院合同説明会(eレジフェア2017in福岡)**が開催されました。今回は山口県のブースが入り口近くであったという関係もあり、訪問学生数は過去最高の延べ420名でした。関門医療センターが97名、徳山中央病院が60名と相変わらず人気がある一方で、山口大学医学部附属病院は19名でした。

なお、7月2日(日)にはインテックス大阪で**レジナビフェア2017大阪**も開催されていますが、こちらの訪問学生数は133名でした。

6月22日(木)に開催された**郡市医師会救急医療担当理事協議会**において、県消防保安課から昨年1年間(速報値)に過去最高の68,699件の救急車出動、61,509人の救急搬送があったとの報告がありました。また、ドクターヘリの出動件数も312件と過去最高であったとのこと。県医師会では県内で人的災害が発生した場合に備

え、郡市医師会の災害時における通信手段等についてアンケート調査を行う予定にしており、その調査依頼を郡市医師会に対して行いました。

6月22日(木)の**第6回理事会**で、9月30日(土)に徳島市で開催される中国四国医師会連合分科会の議題についての協議が行われ、第1分科会(医療保険)への提出議題として「消炎鎮痛等処置の回数について」、日本医師会への提言として「在医総管(施設総管)の『別に厚生労働大臣が定める状態の患者』について」が議題として承認されました。いずれも6月8日(木)に開催された**郡市医師会保険担当理事協議会**で郡市医師会から意見・要望として提出されたものです。同協議会の詳細については本会報7月号掲載の報告記事をご参照ください。

6月24日(土)、東京ドームホテルで**中国四国医師会連合の常任委員会と連絡会**が開催されました。連絡会では中国四国ブロック選出の日医役員からの中央情勢報告がありました。平松恵一日本医師会理事(広島県医師会長)から、医療事故調査制度の中の「医療事故」という名称が誤解を与えかねないとの意見があり、医療安全対策委員会で議論されているという報告がありました。確かに「医療事故」というと「医療過誤」と捉えられかねません。しかしながら「予期せぬ死亡」が必ずしも「医療過誤」によるものではないというケースが多数報告されています。医療法の改正の際に盛り込まれた制度であるため、名称変更には国会での議論・修正が必要となり、今すぐにというわけにはいかないと思いますが、早急に検討・要望を行っていただきたいと思います。

翌 6 月 25 日（日）には日本医師会館で第 140 回日本医師会定例代議員会が開催されました。冒頭の挨拶の中で横倉義武 会長は「かかりつけ医が中心となって、国民一人ひとりの生死に寄り添い続けていくことが、人生 100 年時代に必要な医療の在り方だと確信」していると述べた上で、「医師自らが安全で安心な医療の提供に責任を負うという自覚を改めて確認しあうことが必要」として、卒前・卒後の一貫した医師養成における倫理教育の重要性、専門医制度のあり方、地域の医師の確保等の課題について触れた後、「社会保障を充実するための政策を大胆に展開することで、将来に対する国民の不安を和らげ、国民のさらなる経済活動を助長し「税増収による財政健全化」にもつながるとして、「社会保障と経済は相互関係にある」との従来からの持論を述べておられます。

代議員会では平成 28 年度日本医師会事業報告が行われた後、平成 28 年度日本医師会決算、平成 30 年度日本医師会会費賦課徴収の 2 議題が上程され、来年 4 月 1 日からの勤務医会員の会費（日本医師会医師賠償責任保険料部分）の大幅な引き下げが承認されました。A②（B）会員は医賠償保険料部分が現行の 54,000 円から 40,000 円に、A②（C）会員は 33,000 円から 15,000 円に引き下げられます。30 歳以下の A②（B）会員ではさらに 11,000 円に減免されるとなり、勤務医（特に若手）の日本医師会入会が多くなることが期待されます。

今回の代議員会では代表質問が 8 題、個人質問が 13 題提出され、当会からは加藤智栄 常任理事が「日本の医療が健全に発展するための提言」と題して代表質問を行い、1. 医薬品や医療機器の国内外価格差の解消、2. 院内薬局と院外薬局との価格差の解消、3. オーソライズド・ジェネリック医薬品の活用、4. AMED の予算増額、国民の治験参加促進、開発リスクの国の分担制度の創出の 4 点について日医の対応を尋ねました。詳細については『日医ニュース』及び『日本医師会雑誌』をご覧ください。

6 月 25 日（日）には山口県下医師会立看護学

院（校）対抗バレーボール大会が徳山看護専門学校を引き受けて開催されています。大会参加者 724 名で激戦が続き、非常に盛り上がったとのこと。ただ、残念なことに 3 名の負傷者が出ています。来年は宇部看護専門学校の引き受けて開催の予定です。

6 月 28 日（水）付の「日医白クマ通信 2108」によると、日医の設立記念日である 11 月 1 日を「いい医療の日」として登録するよう、一般社団法人日本記念日協会に対して申請を行い、記念日登録証が交付されたとのこと。県医師会では以前から 11 月 14 日を「いい医師の日」として、その前後の日曜日に県民公開講座を実施してきました。いずれも語呂合わせであるとはいえ、来年からどちらを重視するか検討が必要かもしれません。

7 月 1 日（土）と 2 日（日）の 2 日間にわたり、別府湾ロイヤルホテルで第 30 回全国有床診療所連絡協議会総会「大分大会」が開催されました。来年度は山口県医師会が総会を引き受けることが既に決まっており、河村康明 会長、正木康史 部会長をはじめ総勢 12 名の役職員が参加しました。懇親会で次期開催県会長として河村会長が乾杯の発声を行っていますが、その際に参加した役職員が奇兵隊の扮装で登壇して来年の PR を行い、非常に好評であったとのこと。なお、衣装は萩市のご厚意で貸していただきました。

今回はベルリオーズの「幻想交響曲」を取り上げたいと思います。若い頃のお気に入りの交響曲で調べてみると、14 人の指揮者による 16 枚の LP と CD を持っていました。

交響曲創作のきっかけとなったのはハリエット・スミスソンという人気絶頂の女優に対するかなぬ恋です。ベルリオーズはまだ無名の青年作曲家でしたから、当然失恋に終わっています。この失恋体験をもとに、この曲が作られたのです。ベルリオーズはこの曲に対して次のように書いています。「ある若い芸術家が恋に狂い恋に破れ、この世を嘆いてアヘンを飲んで自殺を図る。し

かし毒物の量が足りなかったため死に至ることができず、彼は深い眠りに落ち、その眠りの中で現実とも夢ともわからない不気味な出来事に襲われる。」

曲は、通常の交響曲とは異なり 5 つの楽章から成っています。第 1 楽章「夢、情熱」、彼女との出会いと狂おしいほどの恋心。第 2 楽章「舞踏会」、舞踏会で再び彼女に巡り会う。第 3 楽章「野の風景」、彼女からは相手にしてもらえず、いても立ってもいられず野原をさまよう。第 4 楽章「断頭台への行進」、夢の中で彼女を殺した若者は死刑の宣告をされ、断頭台に向かいギロチンにかけられる。第 5 楽章「魔女の夜宴の夢」、彼の葬儀は魔女の夜宴となり、踊り興じている魔物の中に彼女がいるのを目にする。第 4 楽章以降はまさにグロテスクと言っても良いほどの過激な音楽となります。しかしここが良いのです。この曲がベートーヴェンの第九のたった 6 年後に書かれたというのは信じられません。まさに奇跡です。これからクラシックでも聴いてみようかという初心

者に、特にお勧めしたいと思います。

最初にこの曲を聴いたのはモントゥー指揮北ドイツ放送交響楽団の LP でした。とても良い演奏だと今でも思っていますが、オーケストラがやや弱く録音が良くありません。私の一押しは、シャルル・ミュンシュ指揮パリ管弦楽団の演奏です。この交響曲の“狂気性”も“叙情性”も表現された熱演です。そのほかにはアバド指揮、デュトワ指揮の演奏も気に入っています。ところで、ベルリオーズといえば、LD（レーザーディスク）で見た歌劇「トロイアの人々」（メトロポリタン歌劇場）も忘れられません。長大壮大すぎて上演困難な作品といわれ、めったに上演されませんが、4 時間以上の上演時間も全く飽きることがありませんでした。特にジェシー・ノーマンの熱演が光っていました。

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生の死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Jun-17	16	76	0	0	4	0	14	110

死体検案数と死亡種別（平成 29 年 6 月分）

